

市指定文化財 天然記念物 昭和60年5月28日指定

## 牧之原公園斜面のカタクリ

カタクリの名前は、カタコユリの略されたものといわれ、学名をエリソロニウム・ヤポニクムといいます。これは、花が紅紫色で日本特産種であるところから、このように名づけられています。

カタクリは万葉集にはただ一首だけ、大伴家持が越中の国守のときに詠んだものがあります。

『もののふの やそをとめらが くまが

寺井の上の 堅香子の花』

この堅香子(かたかご)がカタクリであるといわれています。

カタクリは、山地や丘陵に自生するユリ科の多年草で、成熟すると二枚の葉の中心から花茎が出て先端に一個の花をつけます。花は紅紫色で長さ5cm位、必ず下向きに咲きます。

島田地域では3月下旬から4月上旬が見ごろです。

種子から発芽したカタクリは、1年目は松葉のような子葉が一枚出るだけで、本葉は2年目から出ます。最初は爪くらいの大きさですが、6~7年経つと手のひら大となり、成熟して二枚葉となって初めて花をつけます。葉は全縁で、白色から紫色の斑紋があります。また、地中には鱗茎りんけいがあり、成長とともに大きくなり、次第に潜っていきます。

開花頃には、地中30cmほどの深さに細長いラッキョウ形をした鱗茎が見られます。これには、良質のでんぷんが含まれていて、かつてはカタクリ粉の原料となりました。花被片は、6枚ありますが、外側の三枚は萼(ガク)です。また花には、六本の雄しべがあり三本ずつ時期をずらして成熟します。この花粉を運んでくれるのは、マルハナバチの仲間です。

カタクリの仲間は、日本には一種しかありませんが、世界には二十種ほどあります。分布の中心は冷温帯ですが、北海道から九州まで分布しています。大井川流域での自生地は極めて少なく、ほとんどが牧之原台地周辺です。このカタクリは当初、昭和25年から金谷中学校理科部の部員によって一度も移植せず、肥料を施すといった人工的な手を加えず保護されました。その後、昭和60年に旧金谷町で町指定文化財・天然記念物に指定され、合併により島田市に引き継がれ以後、島田市金谷野の花の会・島田市教育委員会により手厚く保護をしています。

開花時期以外のカタクリの整備は、園内斜面の上層は夏緑樹で、林床はササに覆われています。一度7月初旬にササの除草作業を行い、もう一度11月下旬頃刈り取ります。カタクリの発芽は、未成熟株では3月初旬から、成熟株では3月中頃です。花の最盛期は大体4月上旬頃です(天候により時期が変動します)。